





下

Handwritten signature or name

Handwritten characters

Handwritten characters

Handwritten characters

Main body of handwritten text

Handwritten characters

Main body of handwritten text

Main body of handwritten text

Main body of handwritten text

Main body of handwritten text

Main body of handwritten text

Main body of handwritten text

Handwritten characters

Handwritten characters



三味

三味

今年は今年ほど苦悶の年なり

今年も念しおしつ書きまわすこと皆損益の年なり

この年こそ、私等もこの年この年と号すべし

拙すおしつ書きやけり何事ありきや、思ふに

しむすこと、さへ、タリ久くは、名刺交換の

元号新が、運わししむすこと、さへ、同様の事あり

更し、新の、運わししむすこと、さへ、同様の事あり

物と、新の、運わししむすこと、さへ、同様の事あり

新の、運わししむすこと、さへ、同様の事あり

張村

張村

梅目高市



下

Handwritten signature or name

Handwritten characters

Handwritten characters

Handwritten characters

Main body of handwritten text, first line

Handwritten characters

Main body of handwritten text, second line

Main body of handwritten text, third line

Main body of handwritten text, fourth line

Main body of handwritten text, fifth line

Main body of handwritten text, sixth line

Main body of handwritten text, seventh line

Handwritten characters

Handwritten characters



中山カッパ

十二日十四

十二月六日に御書きたる御手紙は昨日(丁酉十日)頃キキをそと同君クリスマスカードも

久し振りの御便りから非常の嬉しく有りけく拝見しまし

今まは印度関係の方へ御郵の付るが今まはアメリカ関係の事務所にお集うる名由は何か  
えの方か興味かあるにございませう

日本にお帰りなさるから六年にもたうさまからもう  
風俗習慣にもなれたにせうし日本人のお友

さまは深山 おお早にお返にせう。それから高橋や  
羽田や稲毛さまと一潮に狩にも行かれましたし

この島録名日見たの石所も中々うん  
ちうたにせう。和音やもうこのアヒル高の

片田舎に春風はさるーのおきり。おしかりおん  
最ふのやあーおや日本へ行てみるが卒業

をいかり次方り次を便におきりおしりおしり  
おしりおしりおしりおしりおしりおしりおしり

おしりおしりおしりおしりおしりおしりおしり  
おしりおしりおしりおしりおしりおしりおしり

おしりおしりおしりおしりおしりおしりおしり  
おしりおしりおしりおしりおしりおしりおしり

おしりおしりおしりおしりおしりおしりおしり  
おしりおしりおしりおしりおしりおしりおしり



訣

おれをちて置まざらん

こらなはりなり大急の寒しく、幸朝をどけ零下  
十八ふまわ下りすた。そ人ぞわむ今日一日スロー  
かろりそあぬあをそまのみき

去る十月十七日、私共は二人して、晩音院におき

一ヶ月のりあえり帰死しナリニナリ帰定す

途中カクルカス下車し、番印より一宅と上西町

の処へま定りす。上西町はり去らトか、カクルカス

移りニ、い字まおのバウキングハスル仰るのみ、あ

あえう、バスおん、ヤ、(白人の)の選子と、ちうたス

入つておき、番野ドロー、日主。 曹江子の方大器

一方お二世の在のは、熱心なつておき

晩音院に、おもう、午人以上、帰るおき、註取

取取、は、大一人、おき、おき

室のいと、先生、おき、おき、おき、おき

甚此木、さとの、天、おき、おき、おき、おき

海中、おき、おき、おき、おき、おき、おき

百、おき、おき、おき、おき、おき

内、おき、おき、おき、おき、おき

今日、おき、おき、おき、おき

あ、おき、おき、おき、おき

二神

下高、おき、おき、おき、おき、おき、おき、おき

市、おき、おき、おき、おき



中山カッパ

十二日十四

十二月六日に御書きたる御手紙昨日(丁酉十日)頃キキをそと同君クリスマスカードも

久し振りの御便りから非常の嬉しく有りけく拝見しまし

今まは印度関係の方へ御郵の所在を今まはアメリカ関係の事務所にお遷りなると由りすか  
えの方か興味かありませう

日本にお帰りなさるから六年にもたうさまからもう  
風俗習慣にもなれたせうし日本人のお友

書いし山 おお早にお返せう。それから高橋や  
羽田や稲毛を一通り狩にも行なはせうし

この島録名日見たいの名所もやうせん  
ちうたをせう。和音やもうこのアムタ高の

片田舎に春風はさるーのおきり。おしかり中  
最ふのやあふあや日本へ行てみる卒業生

をいかり次方り次を便におきりおしかり  
おきりおきりおきりおきりおきりおきり

おきりおきりおきりおきりおきりおきり  
おきりおきりおきりおきりおきりおきり

おきりおきりおきりおきりおきりおきり  
おきりおきりおきりおきりおきりおきり

おきりおきりおきりおきりおきりおきり  
おきりおきりおきりおきりおきりおきり



訣

おれをちて置まざらん

こらなはりなり大喜の宴しく、奉朝をどけ零下  
十八ふまわ下りすた。そ人をわね今日一日スロー  
かろりそあぬあをそまのみき

去る十月十七日、私共は二人して、晩音院におき

一ヶ月のりあえり帰死しナリニナリ帰定す

途中カクルカス下車し、番印より一宅と上西町

の処へま定りす。上西町はり去らトカカクルカス

移りニに字をおのバウキケハスル仰るのみす。あ

あえうハースおんヤム(白人の)の選子とさうたス

入つておき、番野ドローハ、曹江子の方大器に

一方お二世の在のは、熱心なつておき

晩音院にりもう千人以上帰るおき。寝取を

寝取は大人人取はよいけを

室のいと先生おありせう。主人の換者さ。寝取は

甚此木さとの天も寝取さとのみか、一ヶ月祀

海中に落ちて行方不明にすすた。多事もう生念

百いりせう(眠と解りはすすた)

内分ト多し。下念トクラー、己ん、晩音院におき

今日は何ら位やめせう。

あええんあええん、見えんよふりく。

二神

下高平の多しはカスルにのみす。先達、心臓

病に死にす。

去る六月、  
エドモントンの  
チーの試合  
するため  
エドモントンへ  
来すた。  
そのうち  
ハも、  
改ていますた。



伏候御返し

元禄二年十二月十三日

作手やちりのたう

イヤレターにて

あぢたのあぢたの作手えの母え。おやあ人の作元氣に

うの。あー十通へ書はるやうに吉吉とのおま

そ木からついでと送る下さる。姉へお湯も大妻面りく

遠くのおま。あぢたの温かいやうに感涙を

お昔のやけり。このアにハのうらやうに候人のおま

おつとつと。この日奉人が三人は候のおま

この日奉和共ちん三人に書きた。このカタお中の初子

そ木が。日奉のおま。みかたこのおま。候うとえ

おま。そ人良淋しく候あま。あぢたの作手おま

同じく。一平都に有。あ人の西書控午熊。お中候

おま。かのおま。あま。昨日はおまの。おま。おま

おま。おま。おま。おま。おま。おま。おま。おま



かゞ見事な塔籠と塔へいんとを運ぶ車中  
有りかゝる三つなり。

此の邦を去る。あやむく子成るらん。和書、  
来つとよ。新印を平一の下にあり。和書、  
ゆえラクマ、おてんに泊つたり。其のハルサシ、  
お茶のゆ敷えのきき、嵐山にクラクムを  
行る。世のきき、カフキを見せ、  
おまか中ん思のまをきき。十日十日  
二つして映るないき。今日以上、  
あやむく、映るきかた、  
日本法字のて、あやむく、  
都立の、来年四月、  
あやむく、その、







